

日本の文化・風土に根差す「国民皆保険」

自見 はなこ 参院議員

——参院選を戦い終えた感想。
自見はなこ参院議員 日本医師
連盟の推薦を受け政治活動を開始
してから約1年半で日本を4〜5

周、全国各地の医療機関を中心に
駆け巡りました。
選挙戦も含め、その間に寄せら
れた地域の声を国政に反映させる



気持ちで頑
張りまし
た。
初挑戦な
がら、勝利
した結果
に、支援い
ただいた皆
さまへの感
謝の気持ち
と、重責を
託されたこ

とに身の引き締まる思いです。

——政治家を志した動機は。

自見 きっかけはハワイからの

1本の国際電話。

それは小児科医として虎の門病

院で当直の夜、東京でホームステ

イ中に体調を崩した12歳の娘を案

ずる母親からでした。

辛い、軽い胃腸炎と思われ、水

分摂取の方法など適切なアドバイ

スで対応しましたが、その時、直

接医者に相談できない米国の医療

保険の実態を聞き、国民皆保険

(公的医療保険制度)が整備され

ているわが国との違いに慄然とし

ました。

「医療提供が当たり前」と感じ

ていた自らを反省し、医療・介護

が支える「日本の安心」を守り次

世代に渡すため「国民皆保険制度

を守る」、その決意で名乗りを挙

げました。

——課題・政策で取り組みたい

テーマは。

自見 地域の切実な声を受けた

課題は、「人口減少問題」と医

療・介護・福祉の根幹となる「国

民皆保険制度」。

特に国民全体で痛みとリスクを

分かち合い、日本の文化・風土に

根差すこの制度の堅持は絶対に必

要です。

一方、この2つの課題の中心に
位置付けられる「子供を大切にす
る社会」の実現にも積極的に取り
組みます。

ただ一人の小児科医の与党議員

として、子供に対する医療費の適

正水準化など、健やかな心と体の

成長・発達的重要性を訴えます。

そのために、家族を一つのユニ

ットとする子供の貧困対策を兼ね

た「所得再分配」も必要です。

さらに出産・育児と就業の問題

も喫緊の課題で、「子供が生まれ

ることが喜び」となるよう社会全

体で祝福する体制を目指します。

貴重な任期の6年間、子供の環

境改善に向けた「成育基本法」成

立を目指すなど、全力で取り組ん

でまいります。

「子供を大切にす社会」実現に全力